

一体何いに来たのか!? ＝消耗な破壊「オルグ」団＝



日刊 動労千葉

79.5.1

No. 107

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)
(鉄電)二五八・九・公衆(電)二二七・二〇七

誰も居ない支部で、毎日ぶらぶら回るだけー

動労千葉破壊のための動労本部「オルグ」団は、四月二十八日以降連日、約一〇〇〇名の動員者を全国からかき集め、全支部に投入している。しかし、この「オルグ」団に対する各支部の闘いは創意ある闘いとして展開され、かき集められた動員者は、ことごとくふり廻わされ「聞く」と見るとでは大違いであり、全く消耗してしまい、疲れきって帰っていくというしまつである。われわれは、この四日間の全国動員による「オルグ」をもって銚子、佐倉を中心とする「動労千葉地本再建」を公言する動労本部の意図を完全に粉碎し、あくまでも一四〇〇組合員の強固な団結を一層うちかためようではないか。

成田支部

「我孫子駅」「千葉駅」など出先きの詰所に入り込んだ「オルグ」団に対し、逆オルグを展開。当局の点呼を終って帰ろうとする組合員が「オルグ」団に対して、「千葉駅で一時間もやり合ってきたから、もういうことはない。」と、早々に帰っていく。

勝浦支部

「団結署名は一〇〇パーセント。支部結成大会は圧倒的に成功した」と大々的に掲示してある支部掲示物を「オルグ」団がとりかこんで見ているだけ。各詰所には、勤務以外の組合員は全く見られず完全に肩すかし戦術が成功。

銚子支部

二十九日、青木(本部書記長)現わる。青木、「犠牲の金を持ってきた。」山田支部長、「受けとれない。」青木、「銚子の大会を開いてほしい。」山田支部長、「そんな状況ではない。」青木書記長の面子丸つぶれ。三十日、約二〇〇名の部隊を引きつれて銚子に乗り込んだ青木(書記長)何も出来ずに大新旅館に一泊。当初予定していた「千葉地本再建」はどこへやら。

館山支部

連日、肩すかし戦術のため「オルグ」団が拍子抜け。三〇日は林委員長が一人、乗務員詰所へッスル。

木更津支部

現場管理者を仲介に何とか組合員に接近しようとするが、「話し合うつもりはない」「帰れ」の答えに、何んら打つ手なし。あとは、ただ時間の来るのを待つだけ。

新小岩支部

三日間毎日四〇〇五〇名が来る。一回目は事務員詰所に入り込み、お茶をがぶ飲みしていた。二日目の二十九日、林委員長が来たが支部役員と論争し、たじたじの態で引き上げる。

蘇我支部

D区のため昼食の時間帯はほとんど組合員が来る。自分達だけで雑談して、時間が来ると帰っていく。という毎日だった。

千葉駅

連日、約二〇〇〇三〇〇名の船戸、中泉、村上三浦らを先頭とする暴力集団が各ホーム詰所に入り込んでいやがらせをやる。しかし、年輩をも含めた組合員からの怒りにもえた「出て行け」「話し合う気はない」の拒否の態度ですごく詰所から引き上げるしまつ。

佐倉支部

二十八日、風変りな青木(本部書記長)の自己紹介、「動労本部の青木です」「そんな人は知らないねー」と青木が壁にはってある「青木、城石は自己批判せよ」というビラをゆび指し「あのビラに書いてある『青木』ですよ」と、全く風変りな自己紹介。

千葉転支部

幕張支部

津田沼支部

連日、二〇〇名前後の大「オルグ」団を投入。全く「オルグ」する気力もなくなったただ時間の過ぎるのを待つのみ。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ